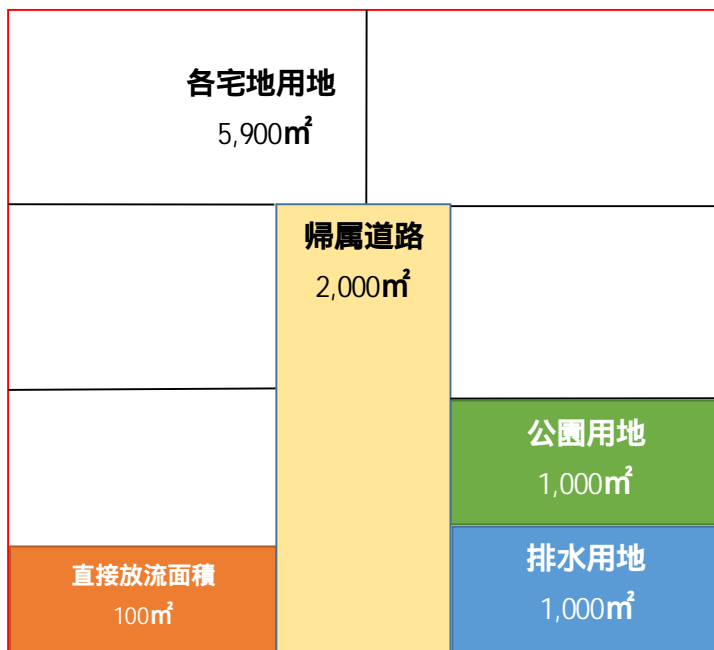


【参考例】雨水貯留施設の概要書の書き方

下のような図の開発を仮定し、概要書を作成する。



各宅地用地	5,900m ²
排水用地	1,000m ²
公園用地	1,000m ²
帰属道路用地	2,000m ²
直接放流面積	100m ²
合計開発区域面積	10,000m ²

条件

- ・基本単位貯留容量 1370 m³/ha の地域とする。
- ・排水用地、公園用地、各宅地用地にそれぞれ貯留施設が設置されている場合を想定する。
- ・公園用地、各宅地用地にはそれぞれの用地面積に対する必要貯留量を満たした貯留施設があり、排水用地には、帰属道路と排水用地の合計面積に対する必要貯留量を満たした貯留施設があると仮定する。
- ・全ての貯留施設は自然流下にて抑制できることとする。

雨水貯留施設の概要書 (事前協議成立時に記入)

全体

開発行為の名称		開発区域	
事業者住所氏名		設計者住所・氏名	
開発面積 (基本貯留対象面積)	10000.00 (9900.00) m ²	開発目的・戸数	
貯留集水面積	9900.00 m ²	直接放流面積	100 m ² 直接放流面積の比率 1%
基準貯留容量	1370.0 m ³	設計貯留量	1374.0 m ³ 許容放流量 0.024 m ³ /s
流末河川	(水系)	放流先	市道 号線、 mm管、 その他

1, 貯留計画一覧表

	貯留施設の種類	貯留施設面積(m ²)	設計貯留量(m ³)	最大水深(m)	平均水深(m)
	排水用地地下貯留施設	200.0	427.0		
	公園用地地下貯留施設	60.0	138.0		
	宅地地下貯留施設	420.0	809.0		
	合計	680.0	1374.0		

2, 浸透計画表

浸透施設名	形状・寸法	数量
浸透トレンチ		m
浸透側溝		m
浸透樹		箇所
透水性舗装		m ²

4, 注意事項

- 1) 基準貯留容量は、小数点第2位以下切り上げ、第1位まで。
- 2) 設計貯留容量は、小数点第2位以下切り捨て、第1位まで。
- 3) 直接放流面積の比率(%)は、小数点第1位以下切り上げ。
- 4) 許容放流量は、有効数字3桁目切り捨て。
- 5) 貯留施設種類は、緑地・駐車場・地下貯留槽等を記入。

3. 放流計画

自然流下(オリフィス諸元)

オリフィス径	mm
H.W.Lよりオリフィス中心までの高さ	m

強制排水(ポンプ排水)

揚程	m
ポンプ・型式	
吐き出し量	m ³ /min
使用台数	台
運転方法	
オーバーフロー管	

案内図(略図)



青い箇所は適宜入力すること。

雨水貯留施設の概要書 (事前協議成立時に記入)

事業者管理

開発行為の名称		開発区域	
事業者住所氏名		設計者住所・氏名	
開発面積 (基本貯留対象面積)	10000.00 (5900.00) m ²	開発目的・戸数	
貯留集水面積	5900.00 m ²	直接放流面積	100.00 m ² 直接放流面積の比率 1%
基準貯留容量	808.3 m ³	設計貯留量	809.0 m ³ 許容放流量 0.014 m ³ /s
流末河川	(水系)	放流先	市道 号線、 mm管、 その他

1, 貯留計画一覧表

	貯留施設の種類	貯留施設面積(m ²)	設計貯留量(m ³)	最大水深 (m)	平均水深 (m)
	宅地地下貯留施設	420.0	809.0		
	合計	420.0	809.0		

2, 浸透計画表

浸透施設名	形状・寸法	数量
浸透トレンチ		m
浸透側溝		m
浸透樹		箇所
透水性舗装		m ²

3. 放流計画

自然流下 (オリフィス諸元)

オリフィス径	mm
H、W、Lよりオリフィス中心までの高さ	m

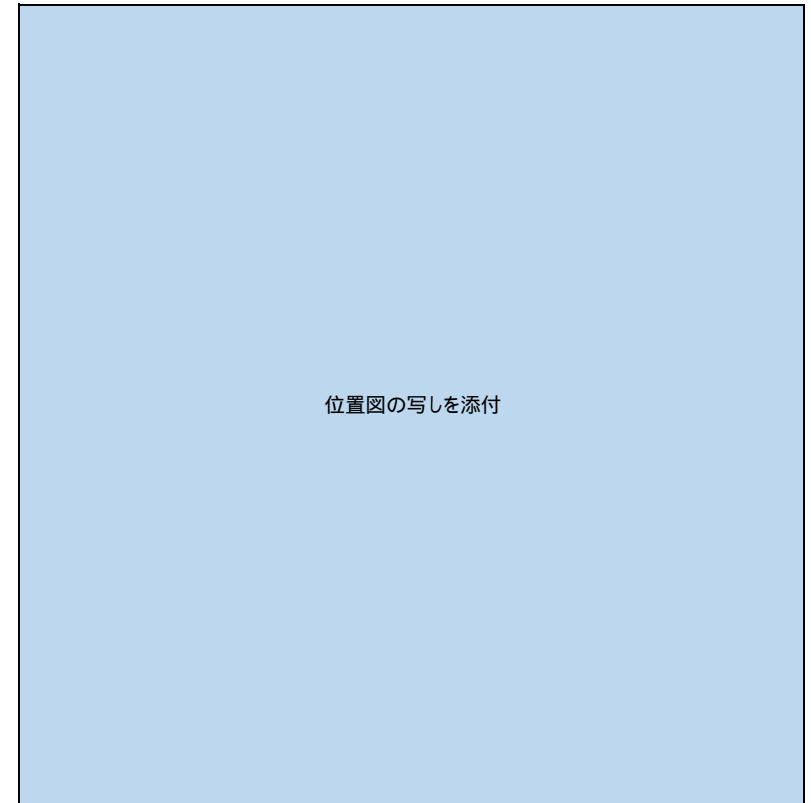
強制排水 (ポンプ排水)

揚程	m
ポンプ・型式	
吐き出し量	m ³ /min
使用台数	台
運転方法	
オーバーフロー管	

4, 注意事項

- 1) 基準貯留容量は、小数点第2位以下切り上げ、第1位まで。
- 2) 設計貯留容量は、小数点第2位以下切り捨て、第1位まで。
- 3) 直接放流面積の比率 (%) は、小数点第1位以下切り上げ。
- 4) 許容放流量は、有効数字3桁目切り捨て。
- 5) 貯留施設種類は、緑地・駐車場・地下貯留槽等を記入。

案内図 (略図)



青い箇所は適宜入力すること。

雨水貯留施設の概要書 (事前協議成立時に記入)

下水道河川管理課管理

開発行為の名称		開発区域	船橋市		
事業者住所氏名		設計者住所・氏名			
開発面積(基本貯留対象面積)	10000.00 (3000.00) m ²	開発目的・戸数			
貯留集水面積	3000.00 m ²	直接放流面積	100.00 m ²	直接放流面積の比	1%
基準貯留容量	411.0 m ³	設計貯留量	427.0 m ³	許容放流量	0.0075 m ³ /s
流末河川	(水系)	放流先	市道 号線、 mm管、 その他		

1, 貯留計画一覧表

	貯留施設の種類	貯留施設面積(m ²)	設計貯留量(m ³)	最大水深(m)	平均水深(m)
	排水用地地下貯留施設	200.0	427.0		
	合計	200.0	427.0		

案内図(略図)



青い箇所は適宜入力すること。

2, 浸透計画表

浸透施設名	形状・寸法	数量
浸透トレンチ		m
浸透側溝		m
浸透柵		箇所
透水性舗装		m ²

3. 放流計画

自然流下(オリフィス諸元)

オリフィス径	mm
H.W.Lよりオリフィス中心までの高さ	m

強制排水(ポンプ排水)

揚程	m
ポンプ・型式	
吐き出し量	m ³ /min
使用台数	台
運転方法	
オーバーフロー管	

4, 注意事項

- 1) 基準貯留容量は、小数点第2位以下切り上げ、第1位まで。
- 2) 設計貯留容量は、小数点第2位以下切り捨て、第1位まで。
- 3) 直接放流面積の比率(%)は、小数点第1位以下切り上げ。
- 4) 許容放流量は、有効数字3桁目切り捨て。
- 5) 貯留施設種類は、緑地・駐車場・地下貯留槽等を記入。

雨水貯留施設の概要書 (事前協議成立時に記入)

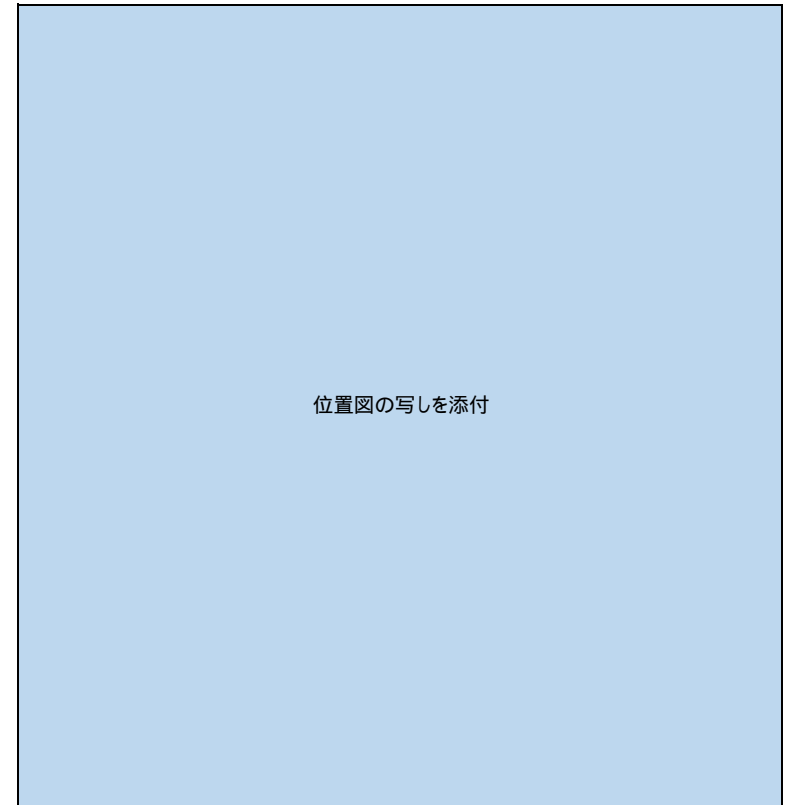
公園緑地課管理

開発行為の名称				開発区域			
事業者住所氏名				設計者住所・氏名			
開発面積 (基本貯留対象面積)	10000.00	(1000.00) m ²	開発目的・戸数		
貯留集水面積	1000.00 m ²			直接放流面積	100.00 m ²	直接放流面積の比率	1%
基準貯留容量	137.0 m ³			設計貯留量	138.0 m ³	許容放流量	0.0025 m ³ /s
流末河川	(水系)			放流先	市道	号線、	mm管、その他

1, 貯留計画一覧表

	貯留施設の種類	貯留施設面積(m2)	設計貯留量(m3)	最大水深(m)	平均水深(m)
	公園地下貯留施設	60.0	138.0		
	合計	60.0	138.0		

案内図(略図)



2, 浸透計画表

浸透施設名	形状・寸法	数量
浸透トレンチ		m
浸透側溝		m
浸透樹		箇所
透水性舗装		m ²

3. 放流計画

自然流下(オリフィス諸元)

オリフィス径	mm
H.W.Lよりオリフィス中心までの高さ	m

強制排水(ポンプ排水)

揚程	m
ポンプ・型式	
吐き出し量	m ³ /min
使用台数	台
運転方法	
オーバーフロー管	

4, 注意事項

- 1) 基準貯留容量は、小数点第2位以下切り上げ、第1位まで。
- 2) 設計貯留容量は、小数点第2位以下切り捨て、第1位まで。
- 3) 直接放流面積の比率(%)は、小数点第1位以下切り上げ。
- 4) 許容放流量は、有効数字3桁目切り捨て。
- 5) 貯留施設種類は、緑地・駐車場・地下貯留槽等を記入。

青い箇所は適宜入力すること。